

東京外国語大学 国際日本研究センター 比較日本文化部門主催
共催：大学院国際日本学研究院 (CAAS ユニット)

講演会

1611年 - 1616年 ロンドンから 日本に送られてきた望遠鏡と、絵画と版画の船荷 ——その目的と意味について考える

*A Telescope and a Cargo of Paintings and Prints Sent
from London to Japan in 1611-1616
- Their Purpose and Meaning.*

2017年6月27日(火) 18:00~20:00

東京外国語大学 研究講義棟 226室

講演者: Timon SCREECH (タイモン・スクリーチ) 教授 (ロンドン大学 SOAS・美術史)

コメンテーター: 久米順子 准教授 (東京外国語大学)

言語: 英語 (日本語資料配布予定)

お申込み不要、一般公開

1611年に日本にはじめてやってきたイギリス東インド会社の船は、国王からのプレゼントとして望遠鏡を積んでいたことで知られている。それはヨーロッパの外に持ち出された最初の望遠鏡であり、そのためにわざわざ作製されたものであった。家康はそれを駿府で受け取っている。1616年にやってきた別の船は、絵画と版画を積んでいた。二つの船荷はまったく別物のように見える——しかしイングランドとその文化にかかわる、特別な目的を有していた。



比較日本文化部門

岡田昭人 久野量一 友常勉 野平宗弘 橋本雄一

林佳世子 春名展生 John Patrick Porter 山口裕之

お問い合わせ: 東京外国語大学 国際日本研究センター
電話: 042-330-5794 メール: info-icjs@tufs.ac.jp

